

長野県医師会在宅医療推進委員会

平成 28 年度在宅医療推進にかかる実態調査 結果報告書（概要版）

2017 年 11 月

■ 目的 ■

「長野県医師会在宅医療推進にかかる実態調査」は、長野県内における在宅医療推進のための基礎データを把握し、今後の長野県と連携した県医師会・郡市医師会の施策・事業として展開するための根拠データとすることを目的として平成 25 年度にベースライン調査を実施した。今回、平成 25 年度調査から 3 年が経過し、事業効果の検証と今後の在宅医療推進事業の基礎資料とするために、平成 28 年度調査を実施した。

■ 対象と方法 ■

平成 28 年 12 月 1 日に長野県内に医療機関登録がある医療機関
(長野県医師会の会員医療機関 n=1324、非会員医療機関 n=66)
※H25 長野県医師会の会員医療機関 n=1326、非会員医療機関 n=70

平成 28 年 12 月下旬に調査票を配布、平成 29 年 1 月下旬までに郵送で回収
会員医療機関： 長野県医師会から各郡市医師会を通じて、郵送にて配布回収
非会員医療機関： 長野県医師会から直接郵送にて配布回収

※医療機関名を記載した調査票の返送をもって、本調査研究への同意とした。

長野県医師会にて調査票のデータ入力
在宅医療推進委員会にて集計解析

■ 回収率 ■

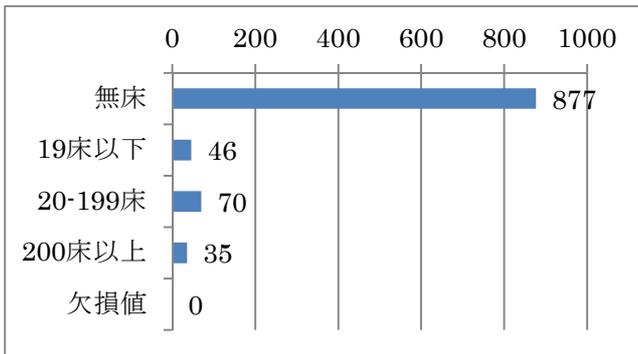
全体では 1028 医療機関から調査票を回収し、74.0%の回収率であった。平成 25 年度調査の回収率 73.1%と比べても同程度の回収率であり、長野県全体を代表するデータと解釈でき、平成 25 年度と平成 28 年度の比較も十分可能なデータとなっている。長野県医師会の会員医療機関では 985 医療機関から調査票を回収し、74.4%の回収率であった。非会員医療機関では 43 医療機関から調査票を回収し、65.2%の回収率であった。

No	郡市医師会	会員医療機関数	回収数	回収率	H25年度 回収率 (参考)
1	佐久	70	35	50.0%	75.0%
2	小県	31	31	100.0%	100.0%
3	諏訪郡	49	28	57.1%	56.6%
4	上伊那	114	81	71.1%	56.0%
5	飯田	108	77	71.3%	57.1%
6	木曾	11	11	100.0%	92.9%
7	塩筑	45	38	84.4%	97.7%
8	安曇野市	68	51	75.0%	66.2%
9	大北	44	39	88.6%	90.5%
10	更級	64	61	95.3%	79.4%
11	千曲	39	21	53.8%	74.4%
12	須高	47	36	76.6%	71.2%
13	中高	31	18	58.1%	87.1%
14	上水内	16	13	81.3%	76.5%
15	飯水	14	14	100.0%	85.7%
16	長野市	176	99	56.3%	69.5%
17	松本市	204	168	82.4%	79.6%
18	上田市	80	76	95.0%	83.1%
19	岡谷市	28	20	71.4%	77.4%
20	諏訪市	39	34	87.2%	72.2%
21	小諸北佐久	46	34	73.9%	72.1%
	会員合計	1,324	985	74.4%	73.5%
	非会員	66	43	65.2%	65.7%
	合計	1,390	1,028	74.0%	73.1%

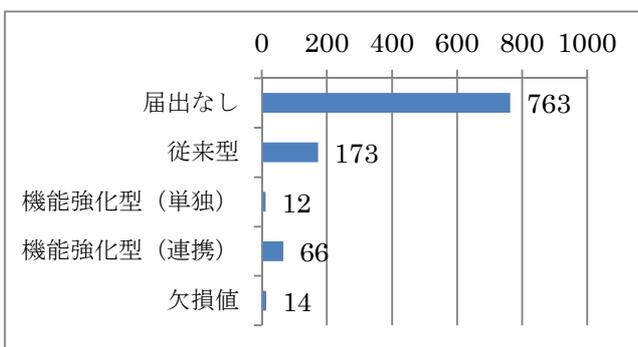
■主な調査結果■

調査協力が得られた 1028 医療機関からの主な調査結果を以下に示す。

1) 病床数の規模

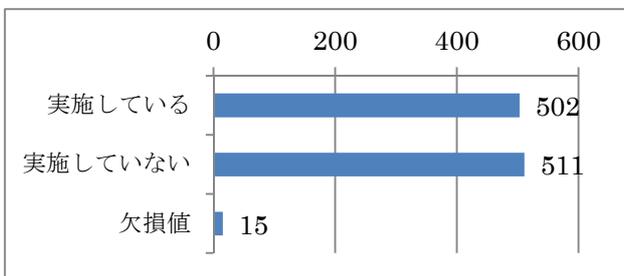


2) 在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院の届出の状況

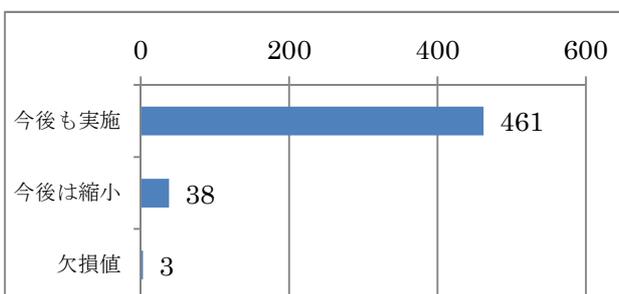


今回の調査には合計 251 か所の在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院が協力している。前回より増加。

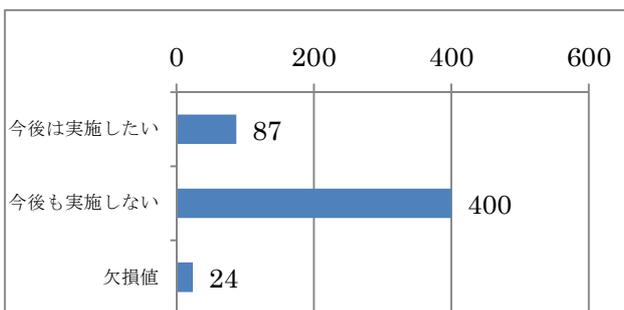
3) 訪問診療の実施状況



全体の 48.8%が訪問診療を実施していた。前回より増加。

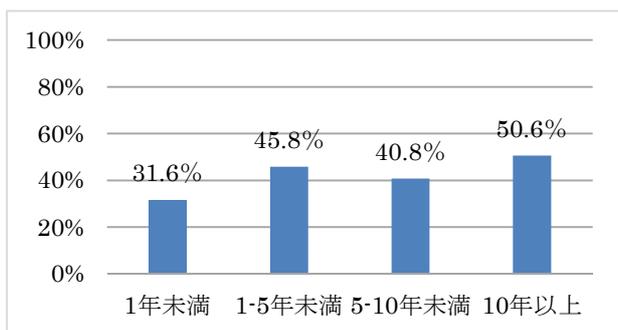


訪問診療を実施している医療機関の中では、91.8%が今後も実施する方針であったが、7.6%は縮小方針であった。



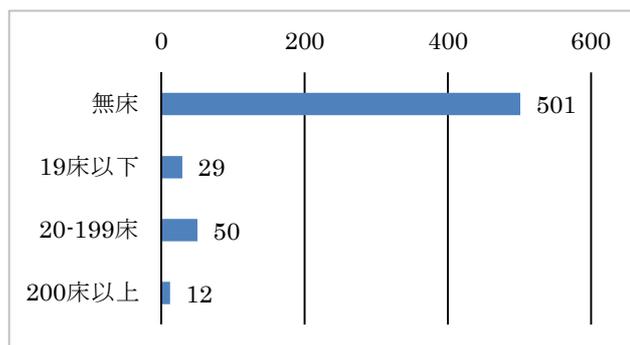
今後訪問診療を実施したい意向を示したのは 87 医療機関であった。前回より増加。

4) 開業年数と訪問診療の実施状況



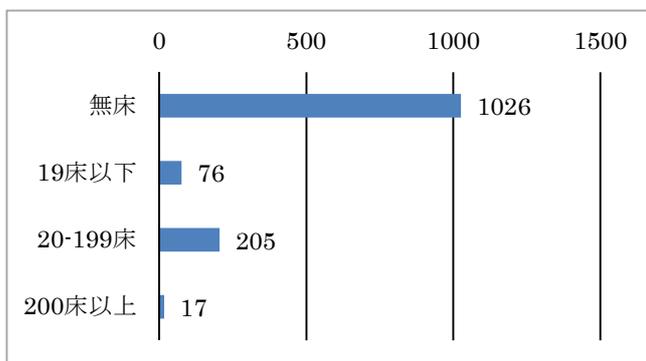
5) 在宅医療対応施設（グループホーム、有料老人ホーム等）での看取りの状況

在宅医療対応施設での看取り	度数 (欠損)	看取り総数	%
無床	128(749)	501	84.6
19床以下	9(37)	29	4.9
20-199床	16(54)	50	8.4
200床以上	3(32)	12	2.0
合計	156(872)	592	100



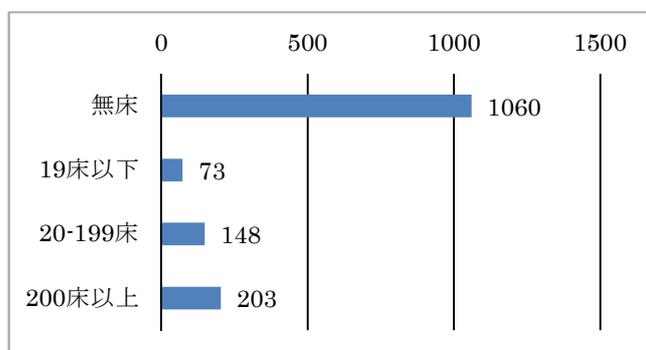
6) 嘱託医施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等）での看取りの状況

嘱託医対応施設での看取り	度数 (欠損)	看取り総数	%
無床	105(772)	1026	77.4
19床以下	7(39)	76	5.7
20-199床	16(54)	205	15.5
200床以上	4(31)	17	1.3
合計	132(896)	1324	100



7) 純粋な自宅での看取りの状況

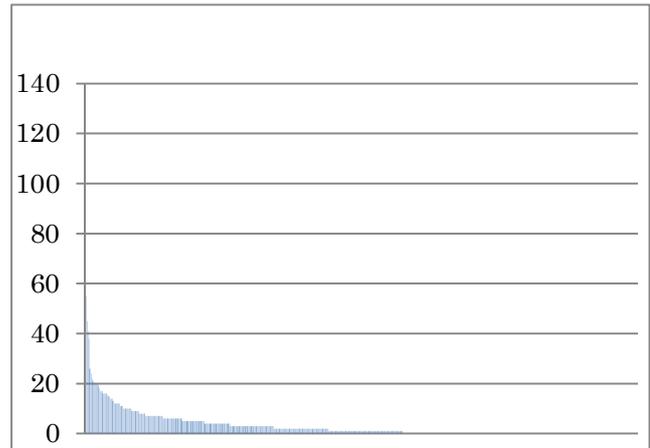
純粋な自宅での看取り	度数 (欠損)	看取り総数	%
無床	303(574)	1060	71.4
19床以下	12(34)	73	4.9
20-199床	27(43)	148	10.0
200床以上	16(19)	203	13.7
合計	358(670)	1484	100



5) 6) 7) のいずれの看取りにおいても、無床診療所の占める割合が多く、地域の看取りを支えていることが示されている。純粋な在宅看取りにおいて200床以上の医療機関の占める割合が増加することは注目すべき点である。

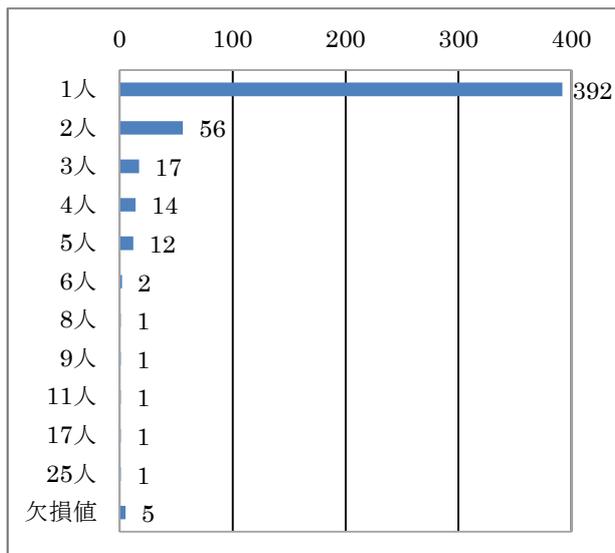
※在宅医療を実施（往診、訪問診療、在宅看取りのいずれかに対応）している医療機関の在宅看取り数（668 医療機関で 2131 名の在宅看取り）

年間看取り数	看取り数合計	(%)	医療機関数	(%)
30 件以上	296	13.9	5	0.7
15-29 件	469	22.0	25	3.7
5-14 件	861	40.4	114	17.1
3-4 件	283	13.3	84	12.6
1-2 件	222	10.4	156	23.4
0 件	0	0.0	284	42.5
合計	2131	100	668	100



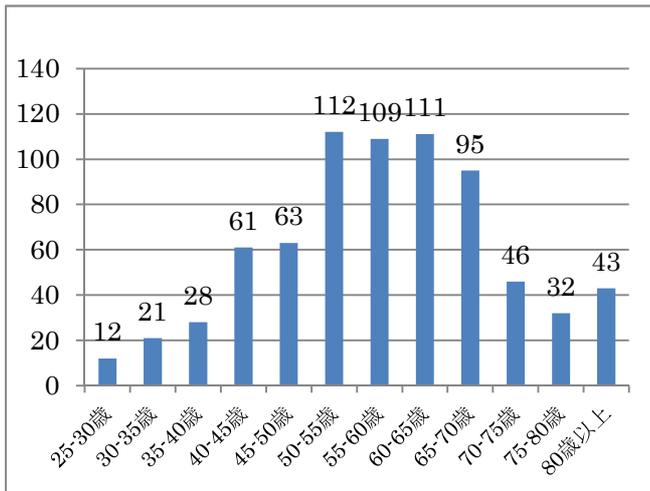
年間 30 件以上の在宅看取りに対応している医療機関で全体の 13.9%を占めたが、一方で年間 1-4 件の在宅看取りに対応している医療機関で全体の 23.7%の在宅看取りに対応していることが明らかとなった。長野県内の在宅看取りは、在宅医療を大きな規模で行う医療機関と、小さい規模で行う医療機関が成り立っている。

8) 訪問診療をしている医療機関の医師数



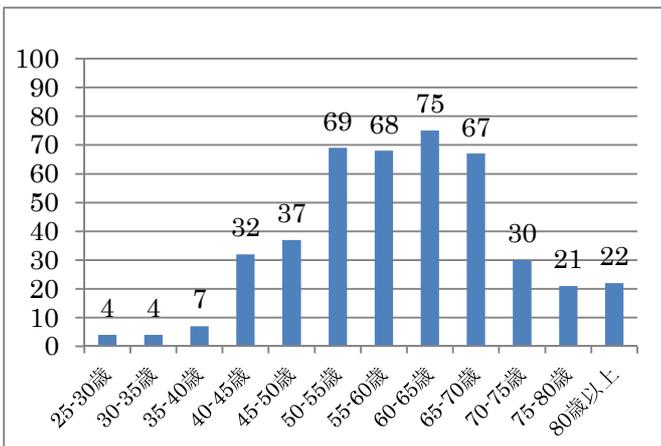
一人診療が 78.1%を占めた。長野県内の訪問診療は一馬力の診療所によって支えられている。前回より増加。

9) 訪問診療を実施している医師の年齢内訳



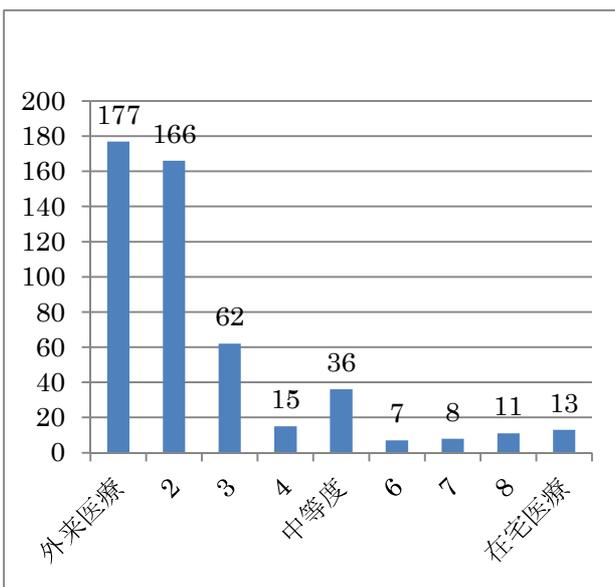
年齢分布からは40代後半から70歳までに分布が集中しており、70-75歳は65-70歳と比べて半減している。前回調査と比べると年齢分布が1つ右方移動している。

10) 医師一人体制で在宅医療を実施している医療機関における年齢分布



医師一人体制で訪問診療を実施している医療機関の年齢分布では70歳以降の急減がさらに大きい。

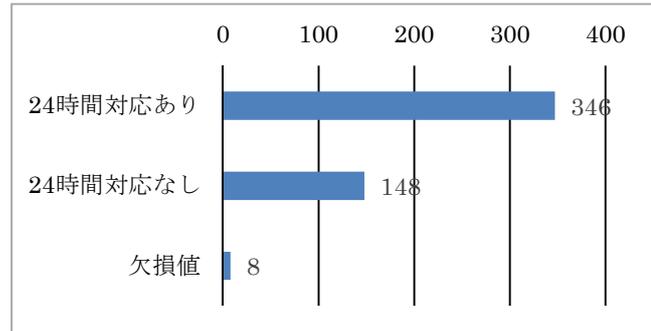
11) 在宅医療のスタイル



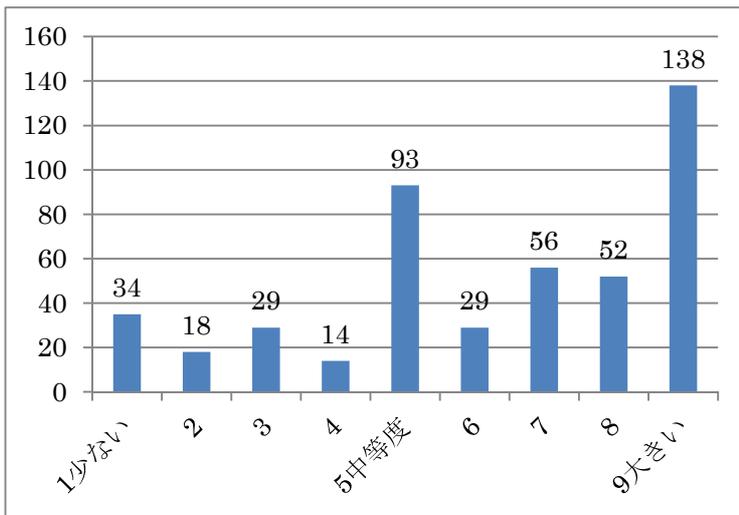
ほとんどの医療機関が外来医療中心で、在宅医療にかかわっていた。前回と変わらず。

12) 在宅医療を行なっている患者に対しての24時間対応の有無

	度数	%
24時間対応あり	346	68.9
24時間対応なし	148	29.5
欠損値	8	1.6
合計	502	100

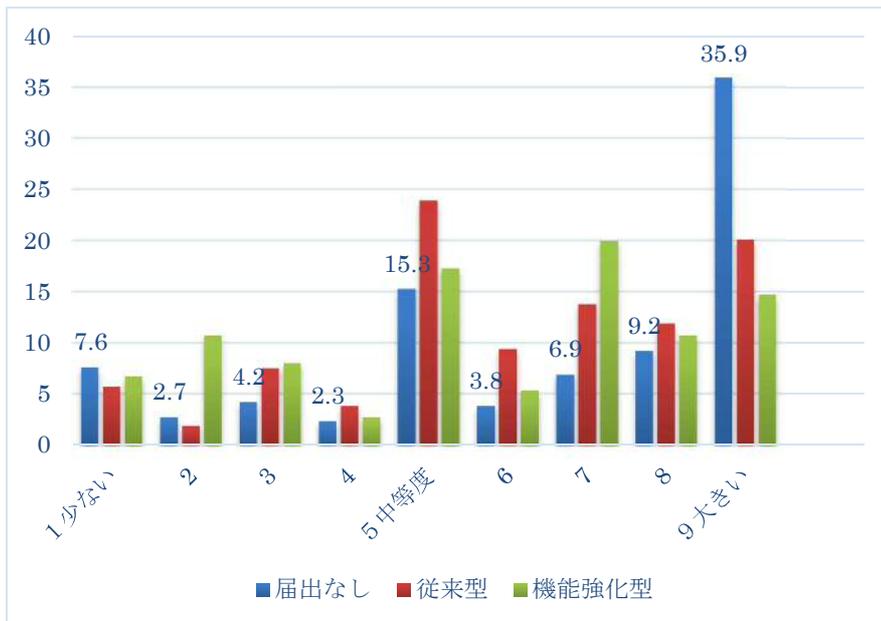


13) 24時間対応に対する負担



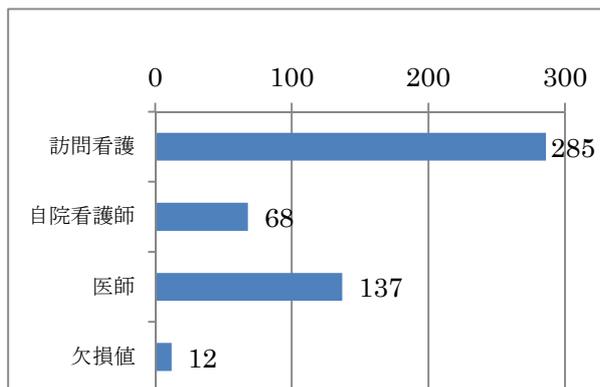
27.5%の医療機関が24時間対応に対する負担が非常に大きいと回答していた。前回より増加。

14) 在支診・在支病の届出状況と24時間対応に対する負担



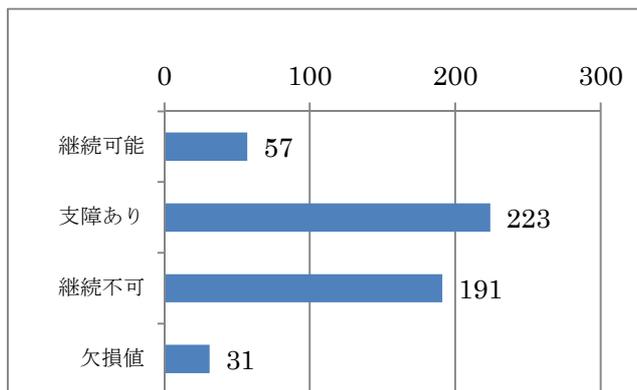
在支診・在支病の届出状況と24時間対応の負担との関係は、届出なしの医療機関では35.9%が負担が大きいと回答したが（前回よりも増加。）、従来型や機能強化型では負担が大きいと回答したのは20%を切っていた。

15) 緊急時ファーストコール体制



医師が対応している場合が 27.3%を占めた。前回調査より低下。

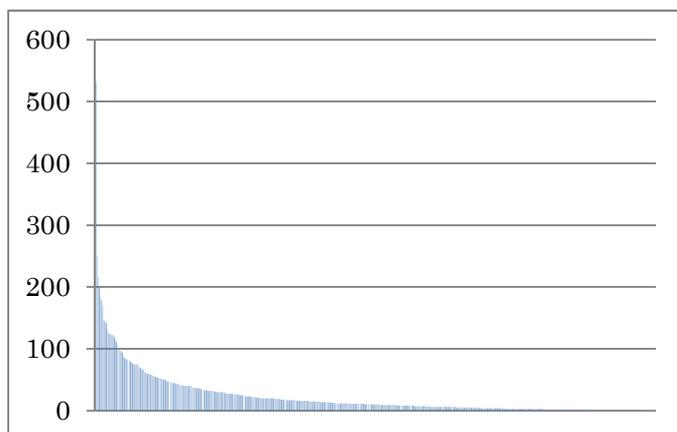
16) 訪問看護ステーションが緊急時ファーストコールを中止した場合



なんらかの支障がでる、継続不可と回答した医療機関は 82.2%にのぼった。前回より増加。

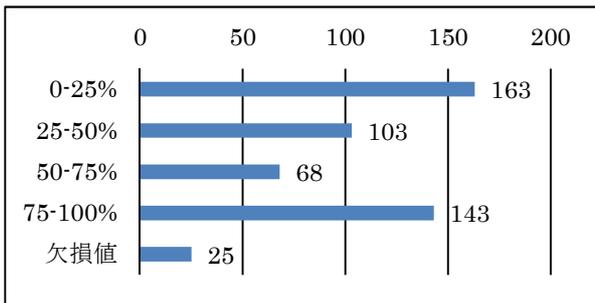
17) 訪問診療の状況

訪問診療	患者数	(%)	医療機関数	(%)
100人以上	3470	30.6	21	4.2
50-99人	2789	24.6	41	8.2
30-49人	1872	16.5	50	10.0
10-29人	2302	20.3	136	27.1
0-9人	913	8.0	241	48.0
欠損値	0	0.0	13	2.6
合計	11346	100	502	100



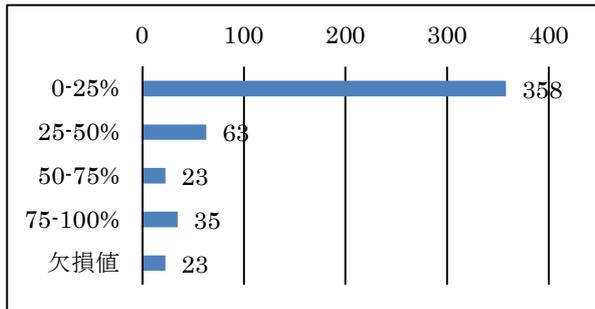
今回の調査では全体で 11346 名の患者に対して訪問診療が行われており、100人以上の大規模で在宅医療を実施している医療機関が全体の 30.6%を占める一方、9人以下の小規模の在宅医療を実施している医療機関でも全体の 8.0%を占めた。前回とほぼ変わらない。

18) 各医療機関で行われている訪問診療の状況



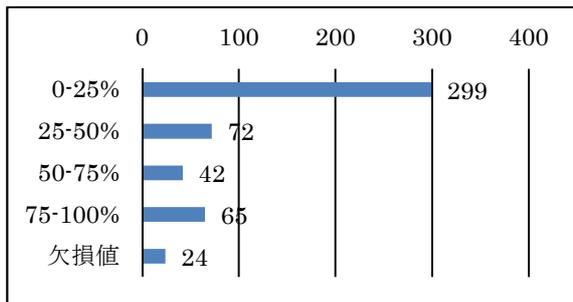
訪問看護を利用

訪問看護の利用にあたっては、訪問看護を積極的に利用する医療機関と、あまり利用していない医療機関の二峰性がみられた。前回と変わらず。



車で15分を超えての訪問診療

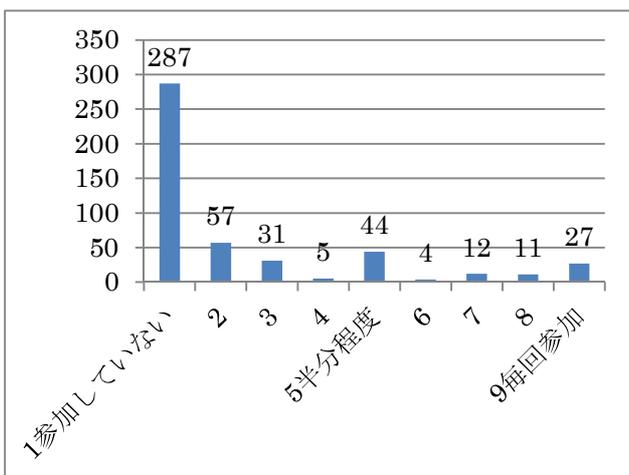
ほとんどの訪問診療において、車で15分を超えてのものは少なかった。前回よりわずかに増加。



居住系施設利用

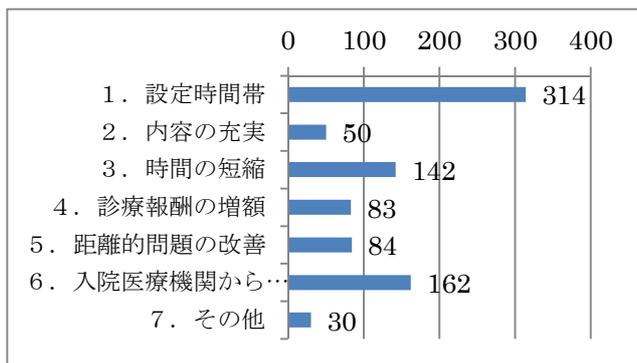
居住系施設への訪問が75%以上を占める医療機関が、全体の12.9%を占めた。前回より増加。

19) 退院時カンファレンスへの参加



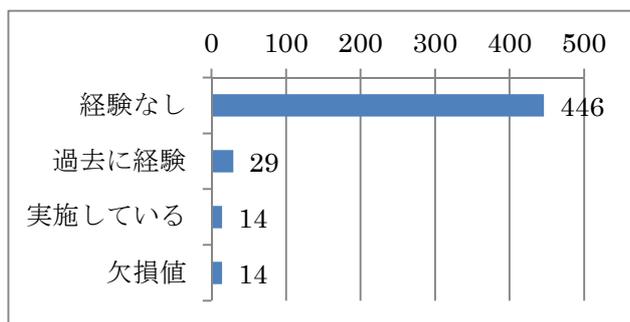
退院時カンファレンスへの参加は、訪問診療を実施している医師でも参加していない医師が多かった。前回と変わりなし。

20) 退院時カンファレンスへ参加しやすくなる改善点



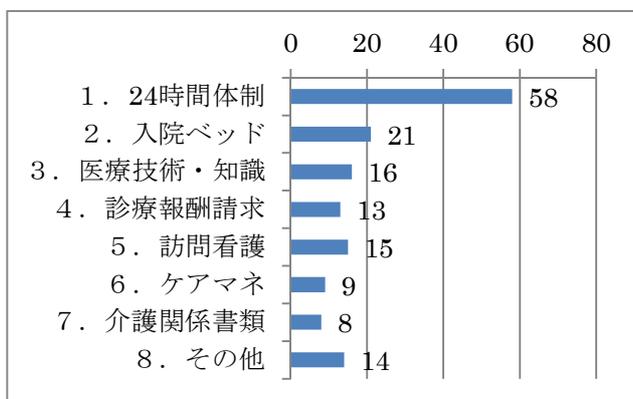
退院時カンファレンスへ参加できるように改善点として挙げたのは、設定時間帯の変更と、入院医療機関からの連絡徹底であった。前回と変わりなし。

21) 小児在宅医療の経験



小児在宅医療は訪問診療を実施している医療機関において、88.8%が経験がないと回答した。前回と変わりなし。

22) 在宅医療を今後考えている医療機関の障壁



訪問診療への参入を検討している医療機関の障壁になっているのは、24時間体制の問題、入院ベッドの確保、訪問看護との連携が確認された。前回と変わりなし。